

吹田操車場遺跡で古代の建物跡がみつかりました！



吹田操車場遺跡の発掘調査でみつかった遺構群（公益財団法人 大阪府文化財センター提供）

かつて吹田操車場があった（仮称）健都ライブラリーの建設予定地において発掘調査がおこなわれました。調査では古代から中世の遺構・遺物がみつかっています。写真は平安時代初頭（9世紀頃）の掘立柱建物とその周辺の土坑・溝です。掘立柱建物は身舎（中央の建物）の南側と北側に柱列を一直線張り出させています。張り出した柱列の機能についてはさまざまな可能性があります。柱ひとつひとつの深さが地面から約70cmときわめて深いことから、軒先の支柱であった可能性があります。このタイプの建築は神社建築に多く見られるもので、今回見つかった建物が特殊なものであったことをうかがわせます。また調査では7世紀後半の遺物が多く入った土坑も検出されており、この場所の建物が平安時代になって突如現れるのではなく、7世紀代から営まれていた可能性が考えられます。（大阪府文化財センター 奥村茂輝）



平安時代の掘立柱建物跡
（公益財団法人 大阪府文化財センター提供）

文化財保護の取り組み

■埋蔵文化財の調査

吹田市内には現在約150か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が確認されています。埋蔵文化財包蔵地やその周辺地で土木工事が行われる際に遺跡に影響を与える恐れがあると判断される場合、発掘調査・試掘調査を行い、遺跡に影響を与えないと予測される場合は掘削工事工程の中で工事立会を行っています。

平成28年度（2016年度）は、23件の発掘調査、8件の試掘調査、138件の工事立会を実施しました。

■文化財の保存・管理・公開・活用

－文化財調査－

市内に残る文化財の保護を目的として、文化財の所在状況や実態を把握するための学術的な調査を行います。また、開発等に伴い、その歴史性や学術的評価が行われないまま滅失する事態も多いことから、保護の方策や方針を得る必要がある場合に、緊急調査を実施しています。

－文化財保存事業補助金の交付－

平成28年度は市指定有形民俗文化財1件、市指定無形民俗文化財1件、市地域無形民俗文化財4件の保存事業に補助金を交付しました。

－文化財の管理・公開－

岸部北5丁目に所在する国史跡七尾瓦窯跡、岸部北4丁目に所在する国史跡吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田34号須恵器窯跡および垂水町1丁目に所在する雉子啜碑について、管理を行うとともに一般公開しています（常時見学可）。

－文化財の普及・啓発－

文化財の啓発資料の作成・頒布、市内の遺跡等の文化財所在地への文化財説明板の設置等を行っています。

■旧西尾家住宅・旧中西家住宅の保存・活用

－旧西尾家住宅－

旧西尾家住宅は建物等が国の重要文化財に指定され、庭園が国の登録記念物となっています。



旧西尾家住宅 積翠庵

平成17年（2005年）10月に旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）として開館し、一般公開を行うとともに、様々なイベントを行っています。

平成29年度は、9月19日～24日の離れの特別公開に合わせて茶釜の展示を行ったほか、10月14日には「すいた歴史グルっとめぐり」を開催しました。

－旧中西家住宅－

旧中西家住宅は建物等が市指定有形文化財および国の登録有形文化財、庭園が国の登録記念物となっています。



旧中西家住宅 庭園

平成20年（2008年）2月より旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）として一般公開を行っており、春と秋には特別公開を行っています。

第59回民俗芸能大会に権六おどりが出演

11月12日に貝塚市で開催された第59回民俗芸能大会に権六おどり(市地域無形民俗文化財)が出演しました。



山田地区権六おどり保存会のみなさん

■旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）、旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）に美術工芸品等の寄附をいただきました。

吹田市内本町2丁目に所在する国重要文化財の旧西尾家住宅と岸部中4丁目に所在する市指定文化財及び国登録文化財の旧中西家住宅は江戸時代に庄屋を務めた家です。京都と大阪の中継地であった吹田の地は数多くの文化人が訪れ、西尾家や中西家は一帯の文化の拠点としての大きな役割も果たしてきました。

そのため西尾家や中西家では数多くの絵画や書、茶道具等が収集・使用され、伝えられてきました。これらの資料は極めて文化的価値の高いもので、その貴重な資料を吹田市で活用し、伝えていってほしいと市に寄附していただきました。

旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）

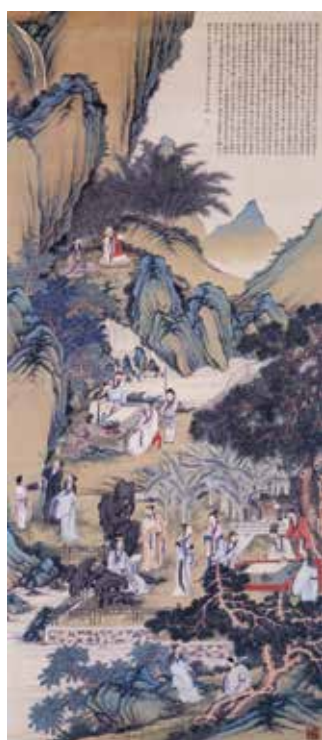
西尾家は江戸時代、仙洞御料という上皇領の庄屋を務めていました。西尾家はこうした伝統を受け継ぎ、文化的活動にも力を入れました。特に11代與右衛門義成（1863年～1925年）は漢学や茶道を修め、画家との交流も多く、文化的活動に力を入れたことが購入や関与して作られた絵画や茶道具等の所蔵資料からも窺い知ることができます。

旧西尾家住宅で西尾家のご協力をいただき展示会を開催しましたが、平成29年（2017年）3月31日に西尾家から多くの美術品等を市に寄附していただきました。

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）

中西家は江戸時代後期に淀藩の庄屋、大庄屋を務めていました。中西家には江戸時代後期から近代に至る時期の文化を今に伝える絵画や書、茶道具等が収集され、残されています。これらは主に江戸時代後期に大坂で活躍した絵師の作品や工芸品です。

平成19年（2007年）に主屋や長屋門等建物5棟とその敷地の寄附を受けて一般公開していますが、新たに平成29年（2017年）9月1日に中西家所蔵の美術品等を土蔵等の建物と共に中西家から市に寄附していただきました。



田能村直入「西園雅集図」



長山孔寅「木蓮に孔雀図」

（河合智子・増田真木）

五反島遺跡出土金属製品・木製品の保存処理

五反島遺跡は、南吹田5丁目の南吹田下水処理場付近一帯に広がる遺跡です。平成25年(2013年)に、南吹田下水処理場雨水滞水池設置工事に伴い実施した発掘調査では、川跡とともに弥生時代から中世にかけての遺物を検出しました。なかでも飛鳥時代から奈良時代にかけての瓦や須恵器が良好な状態で数多く出土し、注目を集めました。また、出土した遺物には土器や瓦などの他に、金属製品や木製品などが認められ、残存状態の良いものが多くありました。

出土した金属製品・木製品には、^{すき}鋤や^{くわ}鍬、鎌、斧など鉄製の刃に木製の柄が付いた状態のものや、鉄製^{やじり}鍬に木製の矢柄が残るものなどが多く認められました。通常、鉄製部と木製部からなる複合製品が鉄製部と木製部の両方を残して出土することはそれほど多くなく、どちらかが欠落していたり、腐朽している場合がほとんどです。しかし、五反島遺跡の場合、川の堆積物である砂層に埋没していた条件が良かったと考えられ、鉄製部と木製部の両方が良好な状態で残存しているものが多くありました。

今回の調査で出土した金属製品・木製品は、細かな破片まで含めると250点以上ありま

す。金属製品・木製品は、地中から出土すると、劣化が進行していきます。金属製品(とくに鉄製品)の場合は、空気に触れることにより、錆化が進みやすくなります。また、木製品の場合は、地中において水分を保っていた状態にあったものが、出土後何もしないでいると乾燥して、最後には崩壊してしまう危険性があります。五反島遺跡出土の金属製品・木製品についても、出土時は残存状態の良好なものが多くありましたが、時間が経つにつれて劣化は進んでいきます。そのため、このような資料を長く良好な状態で保存していくためには、できるだけ早い段階で保存処理を行う必要があります。

五反島遺跡で出土した資料につきましては、平成25年度から保存処理を業務委託で行い、随時処理を実施しています。現時点(平成29年度)で、処理中のものを含めると、これまでに78点の資料について処理を施しています。

保存処理の方法は、資料の性質によって様々な手法がありますが、その多くは樹脂等の薬剤を資料に含浸させることなどによって、金属製品の場合は錆の進行を防ぎ、木製品の場合は形状を安定化させていきます。こ

① 鋤・鍬 (保存処理前・鋤出土状況)



(保存処理後)



①鉄製刃の付いた鋤・鍬です。処理後写真中央の鋤は、一木で作られた木製柄を有する完形品です。全長約120cmを測り、出土した状況では、柄はかなりの水分を含み、非常に軟弱でいつ破断してもおかしくない状態でした。また、他の鋤・鍬についても、木製部分はかなりもろい状態でした。処理後は、注意を要しますが、持ち上げるなどの取扱いがしやすくなりました。

うした処理を行うことで、資料の保管が比較的容易となり、博物館などでの展示等で活用できるようになります。

ここで、保存処理を完了した資料についていくつか紹介します。

② 鉄柄付銅杓（保存処理前）



（保存処理後）



②鉄柄付銅杓どうしやくと呼ばれるものです。その名のとおり、銅製の容器に鉄製の柄が付くものです。銅製容器は注口をもち直径約20cmで、そこに鉄製の柄が4個の鋳で留められて付いています。鉄柄部は錆が覆っていましたが、銅杓部分は錆のない本来の銅色を保つ部分が多く残り、最近まで使われていたのではないかとと思われるほど状態の良いものでした。この資料については、できるだけ良好な状態を維持するためにも、保存処理を優先的にを行い、処理後は、破断していた鉄柄部分を接合して復元しました。

③ 鉄斧（保存処理前・右写真の左から2点目） （保存処理後）



③袋状鉄斧と呼ばれる鉄斧です。処理後写真のうち3点は、一木で作られた木製柄の台部が鉄製斧の袋状部に装着された状態のもので、残存状態は様々ですが、握り部を残すものです。握り部は径2cm程度と細く、これもそのままでは破断の恐れがありましたが、保存処理を行ったことにより、破損の危険性が軽減されました。また、処理後写真の右から2点目の鉄斧は、柄は残っていませんが、処理の過程で、一部錆が元々の鉄刃表面上で偶然に剥離し、袋状の形状が見て取れる資料となりました。

上記の資料については、飛鳥時から平安時代にかけてのものと考えられますが、この他、鉄鎌や鉄鋤、中世の卒塔婆などの資料につい

ても、保存処理を行っており、資料の劣化を防ぐだけでなく、今後、展示等の活用についても検討していきます。（賀納章雄）

吹田操車場遺跡の発掘調査

吹田操車場遺跡は、JR吹田駅から岸辺駅付近一帯に広がる旧石器時代から中世にかけての遺跡です。これまで、吹田操車場跡地での再開発工事等に伴い、本市教育委員会や公益財団法人大阪府文化財センターによって広い箇所では発掘調査が実施されています。

平成29年(2017年)1月～2月にかけては、JR岸辺駅北側広場において本市教育委員会が、駅から現在建設中の施設建物とを結ぶ通路設置工事に伴い、その橋脚部分を対象に発掘調査を実施しました。

発掘調査は、3か所の調査区を設けて実施しました。1か所の調査区では、既に以前の工事掘削によって深くまで攪乱を受け、遺構・遺物は確認できませんでしたが、2か所の調査区(調査面積35m²と49m²の調査区)において、土坑と呼ばれるやや大きく掘削された穴が32基検出されました。ここで検出された土坑は密集して、ほとんどが重なりあっており、大きいものでは5m以上の大きさを測るものがありました。そして、このように密集する土坑群は群集土坑とも呼ばれ、それは墓坑ではないかとか、粘土を採掘した穴では

ないかなどの見方があります。

吹田操車場遺跡では今回の調査だけでなく、岸辺駅北広場一帯の発掘調査において、広い範囲にわたって古墳時代から古代の土坑群が検出されています。吹田市域では、かつて古墳時代に千里丘陵上で須恵器の生産窯が多く築かれ、須恵器生産が盛んに行われていました。また、群集土坑が確認される場所は、主に地盤が粘土層となる地点で認められています。この点で、須恵器生産のためのものかどうかは検討を要しますが、吹田操車場遺跡で確認されている群集土坑については、粘土採掘の痕跡である可能性が考えられており、今回検出された土坑群についても粘土採掘坑ではないかと考えられます。

今回の調査では、遺物が出土した土坑は3基のみでした。その出土遺物も須恵器の甕片であり、細かな年代を特定するには資料が限られています。おそらく出土した須恵器片は古墳時代のものと考えられ、今回検出した土坑群についても、その年代は概ね古墳時代のものではないかと考えられます。

(賀納章雄)



土坑群の検出状況

高城遺跡の発掘調査



高城遺跡 下層遺構全景

高城遺跡は吹田市高城町・昭和町にひろがる旧石器～古墳時代・平安時代・中世の遺跡です。今回は事務所・共同住宅建設に伴い発掘調査を行いました。



古墳時代の竪穴式建物跡



土坑内で見つかった平安時代の土器

調査区では、地表面下約0.45から0.7mまでの間に遺構面2面を検出しました。上層の遺構面では北東から南西に向かって直線に延びる幅約45～80cm、深さ約22～28cmの溝5条と、この溝と併走或いは直交する多数の^{すきみぞ}鋤溝を検出しました。

また下層の遺構面では地山とみられる粘土層上面に、多数のピットと溝、土坑数基、竪穴式建物跡1基、掘立柱建物と考えられる柱

穴列、杭列1列、地鎮具と思われる遺物を埋納した土坑等を検出し、遺構内や遺構面から弥生土器、古墳時代から平安時代の土師器・須恵器、平安時代の黒色土器等が出土しました。

今回検出した^{すきまる}遺構のうち、竪穴式建物については、隅丸方形の構造や出土遺物等から古墳時代の所産と考えられます。また柱穴列の一つは検出部分で3間×3間の建物になる可能性があり、調査区北側で見つかった地鎮具と思われる遺物を埋納した土坑とともに、遺構内から出土した遺物より10世紀初頭の所産と考えられます。この他多数検出したピットと溝の性格については明確ではありませんが、遺構内から出土した遺物から主に古墳時代もしくは平安時代のものと考えられます。なお、上層の鋤溝及び直線溝の底面では中世の遺物が出土しましたが、直線溝上辺では近世の遺物を含んでおり、この直線溝は長期間にわたって機能していた可能性も考えられます。

今回の調査地の南方でも古墳時代の竪穴式建物が見つかっており、当地一帯には古墳時代に集落が営まれ、平安時代にも建物が建てられた後、中世以降は農地へと変わって行ったものと思われます。（田中充徳）

平成29年度特別企画「むかしのくらしと学校」

「むかしのくらしと学校」展を12月12日より開催しています。小学3年生社会科単元「くらしのうつりかわり」の学習に準拠した特別企画展です。展示内容は電気、ガス、水道が各家庭にまだ普及していなかった頃を想定しています。懐かしいむかしの衣・食・住の貴重な道具・資料、学校教材、時代を反映する写真等パネルにして展示しています。ちょっとむかしを体

験できる10のコーナーも設定しています。

この特別企画展は子供達が「楽しい・わかりやすい」を目標に博物館ボランティアのみなさんと内容を協議し、解説等のご協力を得て開催しています。また子供向けの関連イベントを実施しています。

ご家族でお楽しみ頂ければと思います。

(福田 博)

関連イベント（◆親子・子供体験講座◆）

「手づくりおひなさま」

日時：平成30年2月11日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：和紙、木材等を使って作ります。

定員：午前、午後の部とも各20名

対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)

申込：1月30日(火)必着

「大昔のアクセサリー～^{まがたま}勾玉作り～」

日時：平成30年2月17日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：ろう石を削ったり磨いたりして大昔のアクセサリー勾玉を作ります。

定員：午前、午後の部とも各40名

対象：小学生・中学生・保護者

申込：2月6日(火)必着

「ミニチュア銅鏡づくり」

日時：平成30年2月24日(土)

午前の部 10時～11時30分

午後の部 1時30分～3時

内容：五反島遺跡出土の銅鏡の3分の1ミニチュアを鋳型でつくります。

定員：午前、午後の部とも各10名

対象：小学3年生～中学生(小学生は保護者同伴)

申込：2月13日(火)必着

「昔のあかりと火おこし体験」

日時：平成30年3月3日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：ろうそく、行灯、石油ランプ等、昔のあかりを学習し、火打石やまいぎり等の火おこしを体験します。

定員：午前、午後の部とも各15組

対象：小学生・中学生・保護者

申込：2月20日(火)必着

「手作りおもちゃ教室」

日時：平成30年3月11日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：昔の遊び道具と牛乳パックや身の回りにある材料を使っておもちゃ作りをします。

定員：午前、午後の部とも各30名

対象：5歳～中学生(小学生以下は保護者同伴)

申込：2月27日(火)必着

「3世代をつなぐすてきな歌」

日時：平成30年3月17日(土)

午後2時～3時30分

出演：おんぷひろば コーラスビータ

内容：昔から伝わる歌と現代の子供達と大人の歌

定員：120名(先着順)

対象：3歳～大人

■申込方法 はがき、またはFAXに、講座名、希望の時間帯、郵便番号、住所、参加者全員(付き添い含む)の氏名、学年、電話番号を書いて博物館まで。申込多数の場合は、抽選となります。

吹田市立博物館だより第72号 平成29年(2017年)12月28日発行 発行 吹田市立博物館

〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL06(6338)5500 FAX06(6338)9886 ホームページ <http://www.suita.ed.jp/hak/>

この冊子は、3,000部作成し、1部あたりの単価は22円です。